

# 桜蔭会 便り

発行 一般社団法人桜蔭会

## 速報！ 桜蔭塾第3回講座

講演日: 2021年5月16日(日) 14:00-15:30 (Zoom 配信)

演 題: 「日本語の歩む道」

～「令」「和」から“共生(やさしい)日本語”まで～

講 師: 高崎みどり先生 (お茶の水女子大学 名誉教授)



第3回開塾記念講演に、高崎みどり先生をお迎えして、ご講演いただきました。今回は先生のご自宅からのZoom配信で行われ、アメリカからの参加者を含む80名が受講しました。

講演では、日本語について、そのはじまりから、中国語の取り込み、外来語と外行語、現代の“役割語”や“打ち言葉”、外国人にもわかりやすいやさしい日本語に至るまで、多様な観点で語られました。日本語は漢字・平仮名・カタカナ・ローマ字の4文字体系を持つ独特な言語で、豊かな言葉遊びを楽しむことができる一方、まだまだ変化・進化できるエネルギッシュな言葉であることを改めて気づかされた、とても深い内容の講演でした。先生の穏やかで優しい語り口も大変印象的で、アンケートでは第2弾の講演を期待する声もたくさんあります。

講演中もZoomのチャット機能を使って受講者からの質問が寄せられ、講演後はその質問にお答えいただくなど、オンラインでも臨場感ある双方向の情報交換ができました。

先生のますますのご健勝をお祈り申し上げます。貴重なお話をありがとうございました。

(詳細は、会報9月号に掲載される予定。)

お茶の水女子大学  
宮里暁美 教授

「子どもが子どもらしく  
育っていくために」  
～withコロナの「今」考えたこと～

「桜蔭塾」開塾記念講演

日時: 2021年6月26日(土) 14:00-15:30 (Zoom)  
申込み期間: 2021年5月15日(土)～6月19日(土)  
募集人数: 100名 (先着順)  
詳細: <https://www.ouinjuku.com>  
お問い合わせ先: 桜蔭会事業部 info@ouinjuku.com

一般社団法人 桜蔭会

次回は6月26日(土)14:00-15:30  
宮里暁美先生(お茶の水女子大学教授)  
「子どもが子どもらしく育っていくために」

詳細: <https://www.ouinjuku.com/>

名古屋大学大学院教授 森 郁恵さん（昭 55 生）

## 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業（Interstellar Initiative）

のプログラムオフィサー（PO）として活躍中！

### Interstellar Initiative とは

日本医学研究開発機構（AMED）とニューヨーク科学アカデミー（NYAS）が共同で主催する医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業は、日本を含む世界中から若手研究者を公募、選ばれた若手研究者は国際的・学際的チームを構成し、AMED が招へいする一流の研究者（メンター）の指導のもと医療分野の新たな研究計画を立案するものです。名古屋大学大学院教授の森さんは、この事業のプログラムオフィサー（PO）を拝命されており、メンターとしても活躍されています。

<https://www.amed.go.jp/program/list/20/01/005.html> 参照



名古屋大学大学院理学研究科教授 森 郁恵さん

この共同研究開発推進事業は、学際的なチームワーク作りを促進させ、高齢化と健康長寿に焦点を

当てた研究に取り組む研究者を育成します。

### 健康長寿の研究に焦点を当てるのは

多くの国が、急速に高齢化する社会がもたらす課題に取り組んでいます。高齢化社会であっても健康な生活を送れるようにする方法を開発する必要があり、健康な長寿を求める研究の分野は、病気と闘う患者レベルから、細胞、細胞内器官、さらにはたんぱく質や DNA のレベルにまでおよびます。生命科学はすべて老化に関連しているため、研究材料がヒトとは限りません。酵母でも、線虫でも、ショウジョウバエでもマウスでもいいのです。多くの異なる角度から取り組むことが重要になってきます。

### 学際的なアプローチの必要性は

かつては、一人の研究指導者のもとで研究を進めることが、研究の標準でした。しかし、現在では、科学の進展に最も貢献する研究は、共同研究からもたらされるのです。しかも多国籍で学際的であることが求められるのです。しかし、学際的な研究アプローチを実施することは容易ではありません。そこでこの Interstellar Initiative プログラム事業を通じて、多岐にわたる分野の若手研究者間のアイデアの交流をサポートし、学際的プロジェクトを体系的に推進できるようにしていきます。この記事は、Nature Research Custom Media に掲載されています。

<https://www.nature.com/articles/d42473-021-00165-9>